

塗装周期延長鋼「コルスぺース®」が

西海岸道路浦添北道路/牧港高架橋に沖縄地区として初採用

新日鐵住金株式会社の開発した、塗装周期延長鋼「CORSPACE®（以下、コルスぺース）」が国内で最も塩害環境の厳しい沖縄の沖縄西海岸道路浦添北道路の「牧港高架橋」に採用されました。沖縄地区でコルスぺースが採用になったのは、今回が初めてとなります。

コルスぺースは、塗装の塗替周期延長を可能にすることで、ライフサイクルコスト（LCC）低減を実現する鋼材です。鋼材に微量の錫（Sn）を添加したもので、コルスぺースの採用により、同じ塗装条件・使用環境下で塗膜欠陥部における鋼材腐食量や塗膜剥離面積が、従来鋼に比べ大幅に抑制されます。

今回架設が完了した「牧港高架橋」は、沖縄西海岸道路浦添北道路にかかる橋長476mの4径間連続混合箱桁で、海上を跨ぐ鋼コンクリート複合構造形式の高架橋です。この地区は格段に塩害環境が厳しく、従来鋼の場合、腐食や塗装の剥がれによる定期的なメンテナンスが必要となりますが、コルスぺースを採用することによりメンテナンス期間の短縮が見込まれます。今回、橋梁のライフサイクルコスト低減の観点から、鋼桁部の全量（約350トン）にコルスぺースが採用されました。「牧港高架橋」は、三井住友建設株式会社・株式会社日本ピーエス・株式会社横河ブリッジの3社による異工種建設工事共同企業体で工事が進められ、2017年10月に橋桁部分の架設が完了しました。

今後もコルスぺースの普及拡大を進め、塩害が厳しい環境で使用される社会・産業インフラを支える鋼構造物の寿命延長や維持管理費削減、塗装頻度削減による環境負荷軽減に貢献して参ります。



写真 「牧港高架橋」 鋼橋部一括架設状況写真